

佐賀県・唐津商工会議所の宮島会頭が当所を表敬訪問

映画や餃子など約1時間にわたり歓談

2月23日(金)、佐賀県唐津市の唐津商工会議所の宮島清一会頭(宮島醤油㈱社長)と山下正美専務理事、宮島醤油㈱の宮島礼二郎副社長が、宇都宮商工会議所を表敬訪問され、当所関口快流会頭、佐藤佳正専務理事と歓談されました。談論風発、さまざまな話題が出た中から、いくつかのトピックスを紹介します。

市民参加の大作映画『花筐』(唐津市)

唐津商工会議所と宇都宮商工会議所には、もう一つの共通点がありました。映画です。

日本を代表する名監督の1人、大林宣彦監督の映画『花筐』/HANAGATAKI(はながたみ)が昨年12月に全国公開されました。太平洋戦争前夜の若者たちの姿を描くこの作品は、唐津市が舞台。撮影のほとんどが唐津市で行われました。

唐津商工会議所も映画作りを積極的に支援しています。

当初は市民レベルでの協力でしたが、唐津市が「ふるさと納税」のメニューの一つに映画への資金提供を掲げたことや、大勢のボランティア、エキストラで市民が参加したことなどから、唐津市全体がひとつになって映画作りに取り組み形となりました。ボランティアは約1000人、エキストラは約2000人ということですから、膨大な数の市民が



映画ポスターの前で握手を交わす、唐津商工会議所宮島清一会頭(左)と当所関口快流会頭(右)

宇都宮市十唐津市II 餃子とカレーのコラボ

唐津市は佐賀県北西部に位置し、人口は約12万人。古くは風土記に「松浦」の地名で登場し、江戸時代には唐津藩の城下町として栄えました。さまざまな観光資源に恵まれた都市です。産業では第三次産業従事者が就業人口の約6割を占め、商業都市としてのイメージがあります。

唐津商工会議所は昭和9(1934)年に設立され、会員数は約1270事業所です。今回、宇都宮商工会議所に来られた宮島清一会頭は第13代で、平成24(2012)

年に就任されました。また宮島醤油(株)は創業が明治15(1882)年で、主に醤油、味噌の製造・販売を行っています。平成12(2000)年には宇都宮市の清原工業団地に宇都宮工場を開設しており、宇都宮とも関係の深い企業と言えるでしょう。ちなみに、九州の醤油メーカーで東日本に生産拠点を置いているのは、宮島醤油だけです。

工場を設けているだけではなく、宇都宮餃子会とのコラボレーション商品も開発、発売しています。平成27(2015)年に宇都宮餃子会の承認登録商品であるレトルト食品「宇都宮野菜餃子カレー」を発売し、話題となりました。野菜たっぷりの餃子とカレーのコラボレーションは、消費者にも大好評でした。この好評を受けて、3月1日には新たに3種類の商品を開発しました。餃子の具を使ったレトルト食品で、



3月発売の宮島醤油の新商品は、宇都宮餃子会とのコラボ



佐賀県唐津市を舞台に制作された映画「花筐」ポスター

所の協力が実を結び、『花筐』は第72回毎日映画コンクルの日本映画大賞を受賞しました。また映画雑誌『キネマ旬報』による第91回キネマ旬報ベストテンの日本映画部門で第2位に選ばれました。

映画の時代背景が太平洋戦争前夜ということもあり、大林監督はデジタル技術を駆使して当時の唐津市を再現しています。また、唐津くんち(ユネスコ無形文化遺産)など、唐津市ならではの伝統や文化などが登場し、観客に唐津市の魅力を伝えています。

「原作が檀一雄の文芸映画で、上映時間が168分と長いので、難しい映画という印象を持つ人もおられるようです」と話す宮島会頭ですが、映画の完成度の高さを誇りに感じているのは間違いありません。

宮島会頭によれば「地域活性化への効果は、これから」だそうです。大勢の唐津市民が参加したことによって醸し出された連帯感、一体感は、今後の大きな財産になるでしょう。

地方創生ムービー「キスできる餃子」(宇都宮市)

宇都宮商工会議所も大きな役割を果たしている地域創生ムービー「キスできる餃子」も、多くの宇都宮市民や企業、行政などが協力支援し

た点は、唐津市と同じです。主演の足立梨花さんは、撮影と同時期からメディアへの登場がさらに多くなり、その度に「好きな食べ物は何ですか」「餃子の映画を作っています」など、さりげなく映画のPRをする気配りをしてきています。

東京から帰ってきて家業の餃子店のために奮闘する女性とプロゴルファーの恋愛模様を描くこの映画は、昨年夏から秋にかけて、宇都宮市でロケを行いました。本誌読者にも、エキストラで参加したり、撮影を見学した方がおられるのでは？

「キスできる餃子」もほとんどの撮影が宇都宮市で行われました。現在は編集作業など最後の追い込みで、6月に全国公開が決定しています。宇都宮市での先行上映も正式に決まっています。

宮島会頭によれば、宮島醤油の新商品も『キスできる餃子』がきっかけとのこと。映画の中で出てくるシーンが基になり、そこから新商品「餃子の具でカレー作ってみた」など3点が生まれたそうです。映画を媒体とした、唐津市と宇都宮市のコラボレーションとは、うれしい驚きです。

4月〜6月のデザインキャンペーン「本物の出会い、栃木」にも焦点を合わせた地方創生ムービー「キスできる餃子」。関口会頭は支援する会の会長を務めています。関口会頭は「最初は「キスできる餃子」というタイトルに違和感があった、監督に別のタイトルを提案したら、叱られました」とこぼれ話を披露し、笑いを誘いました。そして「キスと餃子という、合わないものを合わせるからインパクトが生まれるのだそう



「キスできる餃子」クランクインパーティー。主演の足立梨花さん(中央)、田村佑久さん(左)、監督の秦建日子さん(右)

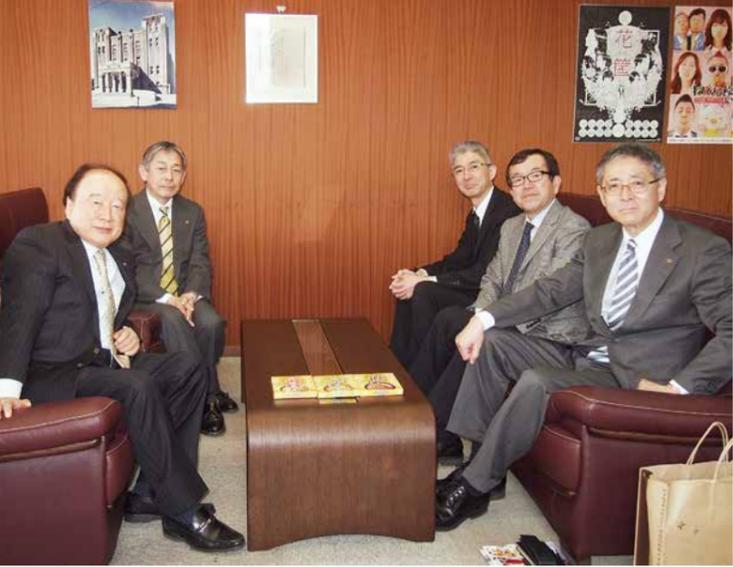
です」と監督のネーミングセンスを讃えます。と監督のネーミングセンスを讃えます。

『花筐』が唐津市の伝統や文化を盛り込んでいる映画であると同様に、『キスできる餃子』には今の宇都宮市の姿がふんだんに盛り込まれています。宇都宮市民だけでなく、ゆかりのある人ならば、映画を観ながら「あ、知っている」「そこも知っている」と笑顔になるでしょう。

※ ※ ※

約1時間の歓談は、映画と餃子、宮島醤油の新商品のほか、さまざまな話題で大いに盛り上がりしました。

映画と餃子が縁となって実現した、今回の表敬訪問。今後も、唐津商工会議所と宇都宮商工会議所の交流を促進し、ともに地方経済文化の発展に寄与していくことができれば、すばらしいでしょう。



会頭室で、1時間にわたって歓談。右から唐津商工会議所宮島会頭、同山下専務理事、宮島醤油㈱宮島副社長、当所佐藤専務理事、関口会頭